

か ね

石と金の文化誌

石と金（金属）は、人々の生活を豊かにするさまざまな道具の材料として使われていますが、「石金」（いしかね）といえは、人情を解しないもののたとえです。一方、「金石の交」（きんせきのまじわり）といえは、硬い友情のたとえでした。そして、金銀や宝石の輝きは、破れることのないはずの友情や信頼を裏切る動機にもなりました。

この講座では、人々の生活と石・金とのかかわりについて、文学・歴史・考古学・美術の視点から考えます。

◆日 時：平成 28 年 11 月 8 日・15 日・29 日 火曜日 18:00~20:10

◆会 場：サテライトキャンパスひろしま
（広島市中区大手町 1 丁目 5-3 県民文化センター 5 階）

◆内 容：裏面をご覧ください。

◆募集人数：80 名

◆対 象：どなたでも

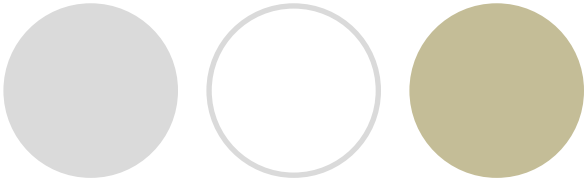
◆受講料：無料

◆申込方法：往復はがきで、往信面の裏に①郵便番号、②住所、③名前（ふりがな）、④電話番号を、返信面の表に受講される方の郵便番号、住所、名前（〇〇様）をご記入の上、平成 28 年 10 月 24 日（月）（消印有効）までに、下の申込先にお送りください。受講の可否は、申込締切日以降に返信はがきでお知らせします。

※申込にあたってお寄せいただいた個人情報は県立広島大学公開講座のご案内以外の目的には使用しません。

◆申込・問合せ先：〒734-8558 広島市南区宇品東 1-1-71
県立広島大学地域連携センター「文化誌講座」係
電話（082）251-9534（平日 9:15-18:00）

◆主 催：県立広島大学地域連携センター



《講座の内容》

銀の輝き ー石見銀山ー

人間文化学部 国際文化学科 教授 秋山 伸隆

11/8
(火)

2007年世界遺産に登録された石見銀山（島根県太田市）は、16世紀から17世紀にかけて世界有数の銀山でした。石見銀山から掘り出された大量の銀が、戦国時代の中国地方の歴史の展開にどのような影響を与えたのか、毛利氏関係史料から読み解きます。

中国山地の鉄

人間文化学部 国際文化学科 准教授 鈴木 康之

「日本刀」は優れた刃物として世界的に高い評価を受けていますが、それを支えてきたのが中国山地で生産された鉄素材です。近年の考古学的な調査・研究の成果をもとに、中国山地における鉄生産の歩みと、その流通・消費の実態について考えます。

金石の響き ー中国の雅楽ー

人間文化学部 国際文化学科 教授 柳川 順子

11/15
(火)

中国古代王朝の儀式では、荘厳な金石の音色が鳴り響いていました。なぜ国家の運営に音楽が関わるのでしょうか。また、なぜ管弦楽ではなく、金属や石でできた楽器が奏でられたのでしょうか。中国の雅楽について、このような視点からの考察を試みます。

「人木石にあらざればみな情けあり」 ー『源氏物語』の世界からー

人間文化学部 国際文化学科 教授 西本 寮子

「人木石にあらざればみな情あり」蜻蛉巻で薫がつぶやいたこのことばは『白氏文集』「李夫人」の一節です。この場面の読み解きから始めて、『源氏物語』における白詩の引用について考えます。

“石”の魔力 ートールキン作品における石の系譜ー

地域連携センター 講師 田淵 桂子

11/29
(火)

トールキン作品には人の心を惑わし、破滅へと導くモチーフとして、『指輪物語』の指輪のほか、「石」が登場します。『ホビットの冒険』、『シルマリルの物語』、『指輪物語』に現れる「石」を取りあげ、互いの関連性について考えます。

石(岩石)と金(きん)の芸術=絵画～西洋と日本の絵具について～

ひろしま美術館 学芸部長 古谷 可也

絵具を使った芸術である絵画。西洋と日本では、質感がまったく違います。しかし、じつは、色の元である岩(顔料)や金(金箔)は同じ素材を使っています。それでも異なる東西の絵具にまつわる岩と金についてお話しします。

